

マツナガの車いす

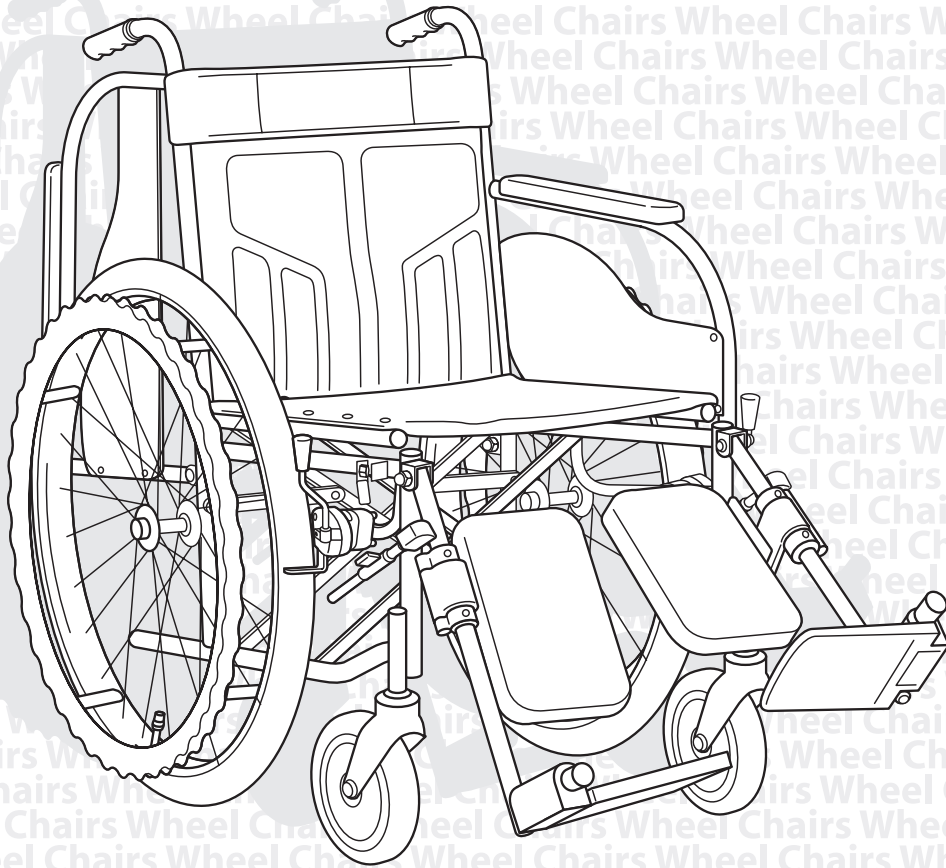
スチールCMシリーズ

(ステンレス・MR用)

取扱説明書

保存用

保証書付



愛の輪
愛のいす



MATSUNAGA

このたびは、(株)松永製作所製品の車いすをお買い上げいただき、ありがとうございます。

この取扱説明書には、お客様が安全に正しくご使用していただくために必要な注意事項や正しい使い方が説明してあります。ご使用になる前には、必ずお読みください。

また、保証書が付いておりますので紛失しないように大切に保管してください。

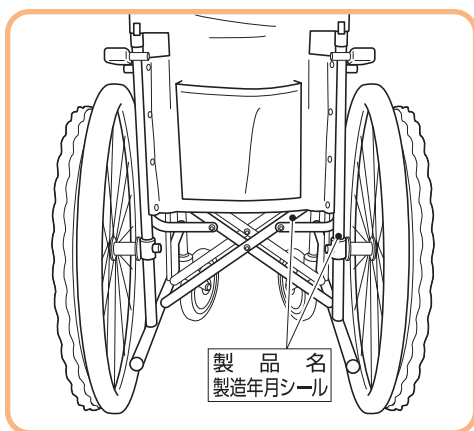
車いすが、あなたの身体に合わない状態で乗らないでください。

健康をそこなう恐れがあります。そのような場合は、購入されたお店、かかりつけの病院にご相談ください。

購入いただいた製品の機種名をご確認ください。
機種名は、下記位置に表示してあります。



主要寸法は4ページの機種別寸法一覧でご確認ください。
機能は6ページの機種別機能一覧でご確認いただき、12～20ページの各機能の使用方法をお読みください。

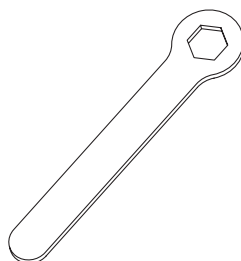


- お買い上げの製品は、改良などにより、この「取扱説明書」の内容と一部異なる場合があります。
- ご不明な点がございましたら、お買い上げの販売店または、直接弊社までお問い合わせください。

付属品

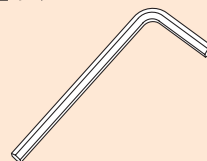


取扱説明書



スパナ
(対辺13mm)

フット・レッグサポート
(新)エレベータリングタイプの
機種のみ



六角レンチ
(対辺4mm)

目次

安全にお使いになるためのご注意	2
機種別寸法一覧	4
各部の名称	5
機種別機能一覧	6
機能説明	7
車いすの広げ方・折りたたみ方	8
車いすの広げ方	8
車いすの折りたたみ方	9
リクライニングタイプの広げ方	10
リクライニングタイプの折りたたみ方	11
安全にお使いになるための使用方法	12
ブレーキの使い方	12
バックサポートのリクライニング	13
アームサポート(新タイプ)跳ね上げ	14
アームサポート着脱	15
アームサポート横開き&着脱	15
フット・レッグサポート(新タイプ)エレベーターティング	16
ふくらはぎパットの調整	16
フット・レッグサポート(新タイプ)スイングアウト	18
フット・レッグサポート着脱	18
フット・レッグサポートエレベーターティング	19
フット・レッグサポートスイングアウト	19
フットサポートの高さ(長さ)調整	20
車いすの使用方法	21
乗り方・降り方	21
動かし方	22
介助の仕方	23
外出時の注意	24
ご使用の前に	26
車いすのオプション	27
安全ベルト・その他	27
もしこんなトラブルが発生したときは	28
車いすのお手入れの方法	28
保管場所	29
保証書	29

安全にお使いになるためのご注意



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があることおよび物的損害の発生する可能性が想定されることを示しています。

お守りいただく内容の説明



この表示は、してはいけない「**禁止**」内容です。



この表示は、必ずしていただく「**強制**」内容です。



警告

(禁止)



しては
いけない

- タイヤの空気圧が少ない状態で、使用しないでください。
ブレーキのロックが出来なくなり、車いすが動いたりして、事故の原因となります。
- フットサポートの上に乗って乗り込んだり、降りるとき上に立ち上がらないでください。
車いすが、バランスを崩し、転倒事故の原因となります。
- 故障、異常のあるときは、使用しないでください。
事故、転倒などによるケガの原因となります。
- 改造しないでください。
改造によって車いすの部品の破損、脱落などで安全性が低下して事故、転倒の原因となります。
- 車いすのシートの上で立ち上がらないでください。

(強制)



必ずして
いただく

- 車いすに乗る・降りる前や、ベッド等への移乗時には、ブレーキをロックしてください。
車いすが動き、転倒事故の原因となります。
- バックサポート折りたたみのノブ玉のピンが、「カチッ」と音がして、完全に出ているのを確認してください。
転倒事故の原因となります。
- リクライニングの角度調整をする時は、ブレーキをロックしてください。
車いすが動いたりして、転倒事故の原因となります。
- リクライニングレバーを左右同時に握りながら角度調整してください。
転倒事故の原因となります。
- 坂道の登り下りの時は、介助者の方が支えて行ってください。
スピードが出たり、バランスが不安定になり、転倒、転落事故の原因となります。
- 道路の通行は、必ず右側を通行してください。(歩道がある場合は歩道を通行してください。)
道路交通法規を守らないと、交通事故の原因となります。
- 側溝の格子蓋や踏み切りなどでご使用される場合は、必ず介助者の方に支えていただいて行ってください。
車輪が溝にはまって転倒事故の原因となります。

⚠ 注意

(禁止)



しては
いけない

- バックサポートに重いものを引っ掛けないでください。
車いすが不安定になり、転倒事故の原因となります。
- 車いすを拡げる時に、座パイプの横や下に、手や指を入れないでください。
パイプに手や指を挟んでケガをします。
- リクライニング車いすの連結バーを外したまま、使用しないでください。
- リクライニング車いすのヘッドサポートを外したまま、使用しないでください。
- リクライニング車いすの連結バー・ヘッドサポート部を持って、走行しないでください。
- アームサポートが(新タイプ)跳ね上げ・着脱・横開き&着脱の場合は、アームサポートを持って、車いすを持ち上げないでください。
以上のような、使用をされますと転倒・転落事故の原因となり大変危険です。
- スピードが出ている状態で、素手でハンドリムを持って減速しないでください。
摩擦で、手にケガをする恐れがあります。
- 車輪が回転しているときは、スポークに手や指を差し込まないでください。
手や指をはさんで、ケガをする原因となります。
- タイヤを持って車いすを操作しないでください。ブレーキに手があたり、ケガをする原因となります。
- バックしながら、急停止しないでください。転倒事故の原因となります。
- 火気の近くに置かないでください。タイヤがパンクしたり、シートが燃え火災の原因となります。
- バックサポートパイプのみで、キャスト(前輪)を上げないでください。
バックサポートパイプが曲がったり、折れたりして、転倒事故の原因となります。
- スピードをつけて、段差を乗り越えようとししないでください。
使用者が車いすから、転落して事故の原因となります。
- バックサポートが折りたたみの場合は、使用者が車いすに乗っている状態でグリップを持って吊り上げないでください。
パイプが、外れたりして、転倒・転落事故の原因となります。
- 走行中、身体を乗り出さないでください。バランスが不安定になり、転倒・転落事故の原因となります。

(強制)



必ずして
いただく

- 介助者の方は、キャリパーブレーキレバーを両側同時にかけてください。
バランスを崩し、転倒事故の原因となります。
- 車いすを拡げた時、座パイプが受けに収まっているか、確認して座ってください。
パイプが曲がったりして、転落事故及び故障の原因になります。
- リクライニングの連結バーのノブネジは、確実に固定してください。
外れて、転倒、転落・事故原因となります。
- リクライニングのヘッドサポートロックを確実にかけてください。
外れて、転倒、転落・事故原因となります。
- 必ずヘッドサポートを取り付けてご使用ください。パイプ差込口で手や頭にケガをする原因となります。
又、フレーム強度が低下し、破損の原因となります。
- エレベータリングのフットサポートに足が乗った状態で調整する場合は、フットパイプをしっかり支えて行ってください。ロック解除時に、手をパイプに挟んでケガをする原因となります。
- スイングアウトをもどしたときは、ロックが確実にされているか確認してください。
足を乗せたとき、外れて足をケガする原因となります。
- アームサポート(新タイプ)跳ね上げをもどしたときは、ロックレバーのピンが完全にロックされていることを確認してください。転落事故の原因となります。
- 安全ベルト装着機種は、必ず安全ベルトを締めてください。衝撃などで転落し事故の原因となります。
- 安全ベルトのマジック式は、糸くずや汚れを取り除いてください。
粘着力が弱くなり衝撃を受けた時外れ転落事故の原因となります。
- フットサポートが固定されているか、確認してから使用してください。
フットサポートが脱落し事故の原因になります。
- フットサポートの高さは地面より5cm以上でご使用ください。
路面の凹凸や障害物にフットサポートが引っかかり急に車いすが止まり、転倒事故の原因になります。
- 乗り降り、駐車は平坦な場所で行ってください。
車いすが動いたりして、バランスを崩し、転倒・転落事故の原因となります。
- 坂道を下るとき介助者の方は、車いすを後ろ向きでゆっくり確認しながら走行してください。
前向きで下ると、乗っている人がずり落ちたり、前のめりとなり、転倒事故の原因となります。
- 側溝の格子蓋、踏み切りのレール溝にキャストが落ち込まないように注意してください。
車いすが急に止まり使用者の体が前方に傾き、転落転倒事故の原因となります。

機種別寸法一覧

機 種	キャスト (インチ)	大車輪 (インチ)	前座高 (m/m)	後座高 (m/m)	全 長 (m/m)	全 高 (m/m)	全 幅 (m/m)	折畳み幅 (m/m)	重 量 (kg)
CM-221	7	24	470	440	1040	860	625	330	20.8
CM-231	7	24	470	440	1015	860	625	330	18.5
CM-251	7	16	470	440	1040	860	550	270	19.0
CM-261	7	16	470	440	1015	860	550	270	16.6
CM-1	7	24	470	450	1060	890	635	330	18.0
CM-2	7	24	470	450	1060	890	635	330	18.0
CM-3	7	24	470	450	1060	890	635	330	18.0
CM-10	6	24	450	430	1040	880	635	340	17.0
CM-11	6	24	450	430	1040	880	635	340	17.0
CM-12	6	24	450	430	1040	880	635	340	17.0
CM-13	7	22	430	400	1040	840	635	330	17.0
CM-14	7	22	430	400	1040	840	635	330	17.0
CM-15	7	22	430	400	1040	840	635	330	17.0
CM-16	6	22	400	375	1010	820	630	330	16.0
CM-17	6	22	400	375	1010	820	630	330	16.0
CM-18	6	22	400	375	1010	820	630	330	16.0
CM-20	7	24	470	450	1060	910	635	315	19.5
CM-21	7	24	470	450	1060	900	635	315	19.5
CM-22	7	24	470	450	1060	910	645	325	20.0
CM-23	7	24	470	450	1060	910	645	325	20.0
CM-25	7	24	470	450	1060	890	635	330	19.0
CM-29	6	22	390	370	1020	820	635	320	17.0
CM-30	6	22	390	370	1020	820	635	320	17.0
CM-70	7	16	470	440	950	860	570	250	15.5
CM-71	7	16	470	440	950	860	570	250	15.5
CM-73	6	12	470	430	940	890	550	210	11.0
CM-73DX	6	12	470	430	940	890	550	210	11.1
CM-80	5	22	395	375	980	800	630	300	14.0
CM-81	5	22	395	375	980	800	630	300	14.0
CM-84	5	22	400	380	980	820	630	320	13.0
CM-85	5	22	400	380	980	820	630	320	13.0
MR用	5	22	415	385	1030	860	645	300	12.5
CM-501	7	24	470	450	1140	1270	645	330	25.1
CM-52	7	24	470	450	1140	1270	645	330	25.1
CM-541	7	16	470	450	1070	1270	560	230	22.5
CM-56	7	16	470	450	1070	1270	560	230	22.5

各部の名称

標準タイプ (自走・介助)

グリップ

介助者が押すために使用します。

キャリパーブレーキ

介助者がスピードを調節するために使用します。

ブレーキの使用法 P.12

駆動輪 (自走型)

主輪 (介助型)
駆動を伝える車輪

ハンドリム

自走型で駆動輪を操作するとき、使用します。

ティッピングレバー

キャスタを上げたりするため介助者が足で踏むとき使用します。

ブレーキ

乗り降りの時、車いすが動かないようにする為に使用します。

ブレーキの使用法 P.12

キャスタ (前輪)

バックサポートパイプ

固定式と折りたたみ式があります。

広げ方・折りたたみ方 P.8~9

バックサポート (背もたれ)

背をもたれかけるところです。

アームサポートパッド

肘を乗せるところです。

アームサポート

機種別機能一覧 (P.6) をご確認ください

シート (座)

座るところです。

フットサポート

足をのせるところです。

フットサポートの調整 P.20

レッグサポート

足が後方に落ちないように保護します。

フット・レッグサポート

機種別機能一覧 (P.6) をご確認ください

リクライニングタイプ (自走・介助)

ヘッドサポート

肩から頭部に掛けて、もたれかけるところです。

広げ方・折りたたみ方 P.11~12

リクライニングレバー

バックサポートの角度を調節する時使用します。

リクライニング操作 P.13

フット・レッグサポート (新) エレベータリング

角度を調節できます。

エレベータリング操作 P.16

まくら

頭を支持するのに使用します。

安全ベルト

上体がずり落ちたり倒れたりするのを、防止します。

安全ベルトの装着 P.27

ふくらはぎパット

足が後方に落ちないように保護します。

調整方法 P.16~17

機種別機能一覧

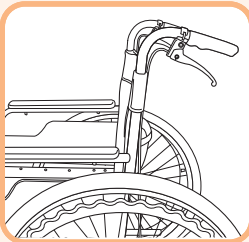
機 種	タイプ	バックサポート	アームサポート		フット・レッグサポート	ブレーキ	
			機 能	形 状		種 類	機 能
CM-221	自 走	固 定	(新)跳ね上げ		(新)エレベーターティング	ミ ニ	
CM-231	介 助	固 定	(新)跳ね上げ		(新)エレベーターティング	ミ ニ	
CM-251	自 走	固 定	(新)跳ね上げ		(新)スイングアウト	ミ ニ	
CM-261	介 助	固 定	(新)跳ね上げ		(新)スイングアウト	ミ ニ	
CM-1	自 走	固 定				鉄(平型)	
CM-2	自 走	折りたたみ				鉄(平型)	
CM-3	自 走	固 定		デスク		鉄(平型)	
CM-10	自 走	固 定				鉄(平型)	
CM-11	自 走	折りたたみ				鉄(平型)	
CM-12	自 走	固 定		デスク		鉄(平型)	
CM-13	自 走	固 定				鉄(平型)	
CM-14	自 走	折りたたみ				鉄(平型)	
CM-15	自 走	固 定		デスク		鉄(平型)	
CM-16	自 走	固 定		デスク		鉄(平型)	
CM-17	自 走	折りたたみ				鉄(平型)	
CM-18	自 走	固 定				鉄(平型)	
CM-20	自 走	固 定	着 脱			鉄(平型)	
CM-21	自 走	固 定	着 脱	デスク		鉄(平型)	
CM-22	自 走	固 定	着 脱		エレベーターティング	鉄(平型)	
CM-23	自 走	固 定	着 脱	デスク	エレベーターティング	鉄(平型)	
CM-25	自 走	固 定	着 脱		スイングアウト	鉄(平型)	
CM-29	自 走	固 定			スイングアウト	鉄(平型)	
CM-30	自 走	折りたたみ			スイングアウト	鉄(平型)	
CM-70	介 助	固 定	横開き & 着脱			鉄(介助型)	キャリバー
CM-71	介 助	折りたたみ	横開き & 着脱			鉄(介助型)	キャリバー
CM-73	介 助	折りたたみ				鉄(介助型)	
CM-73DX	介 助	折りたたみ				鉄(介助型)	キャリバー
CM-80	自 走	折りたたみ			着 脱	鉄(平型)	
CM-81	自 走	折りたたみ		デスク	着 脱	鉄(平型)	
CM-84	自 走	折りたたみ				鉄(平型)	
CM-85	自 走	折りたたみ		デスク		鉄(平型)	
MR用	自 走	固 定				ステンレス	
CM-501	自 走	リクライニング	着 脱	後方延長	(新)エレベーターティング	鉄(平型)	
CM-52	自 走	リクライニング	着 脱	後方延長	(新)エレベーターティング	鉄(平型)	
CM-541	介 助	リクライニング	着 脱	後方延長	(新)エレベーターティング	鉄(平型)	
CM-56	介 助	リクライニング	着 脱	後方延長	(新)エレベーターティング	鉄(平型)	

機能説明

〈バックサポート〉

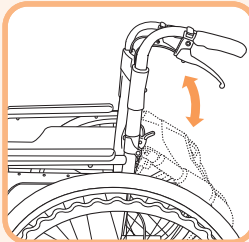
固定

背もたれパイプが固定です。耐久性に優れています。



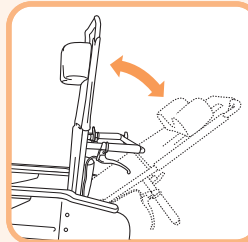
折りたたみ

背もたれが折りたたみで、コンバクトになります。自動車等への積み込みが容易に行えます。



リクライニング

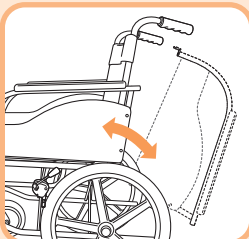
レバー操作によって、背もたれの角度が調節できます。



〈アームサポート〉

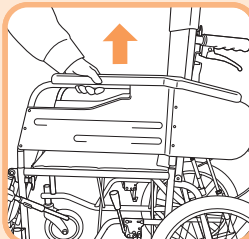
〈新〉跳ね上げ

簡単なワンタッチ操作で肘掛けの跳ね上げができます。ベッド等の移乗時に大変便利です。介助軽減にも役立ちます。



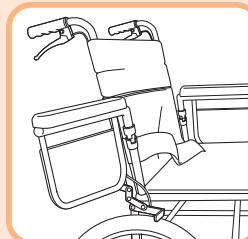
着脱

肘掛けが完全に取り外し可能です。介助軽減にも役立ちます。



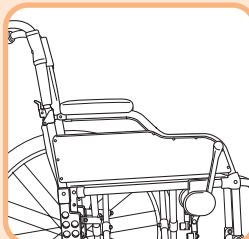
横開き&着脱

肘掛けが横開きします。また、取り外すこともできます。ベッド等の移乗に便利です。



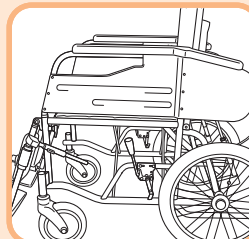
デスク

肘掛け高さが一段下がっているため、机や作業台により近づいての作業、食事が可能です。



後方延長

肘掛けが後方に延長され、リクライニングの時に腕が肘掛けと背もたれの間に落ちたり、はさまれたりすることがありません。

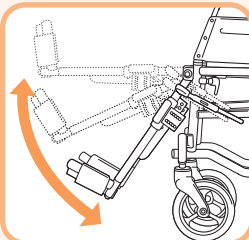


〈フット・レッグサポート〉

〈新〉エレベータリング

エレベータリング

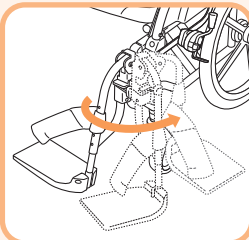
フット・レッグサポート部の角度が調節可能です。足が硬直、変型している方に最適です。新タイプは、ふくらはぎパットの位置調節が可能です。



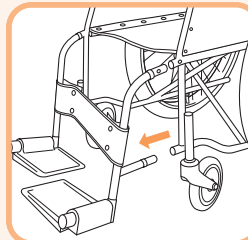
〈新〉スイングアウト

スイングアウト

フット・レッグサポート部が開閉でき着脱可能です。ベッド、便器等への接近が容易です。片手片足操作にも適しています。新タイプは樹脂製になり、操作もより簡単です。



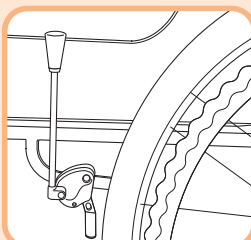
着脱



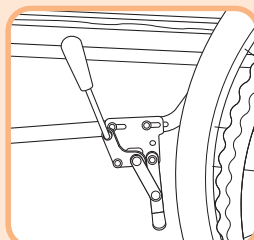
フット・レッグサポートを取り外すことができます。片手片足走行に適しています。

〈ブレーキ〉

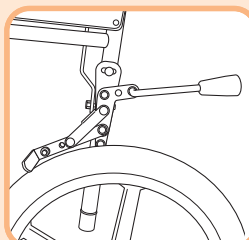
ミニ



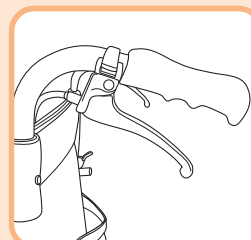
鉄（平型）／ステンレス



鉄（介助型）



キャリパー



車いすが動かないようにする時に使用します。介助型は車いす後方から操作できます。

介助者が走行中（下り坂）の減速・停止に便利です。

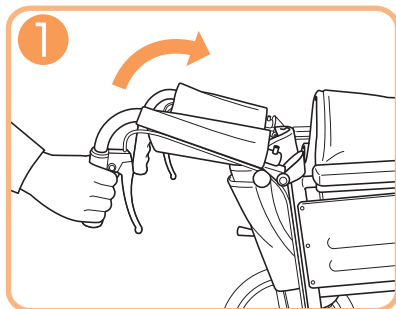
広げ方・折りたたみ方

車いすの広げ方

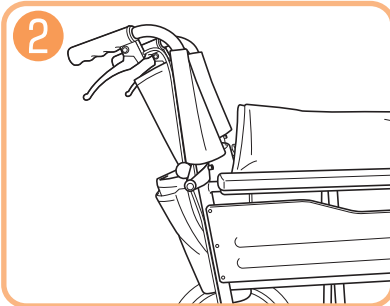
●バックサポート固定の場合は、手順③から行ってください。

*バックサポートの折りたたみをおこす時は、車いすを折りたたんだ状態で行ってください。
(広げた状態で行うと、背シートにバックサポートパイプが引っ張られ、ロック出来なくなります。)

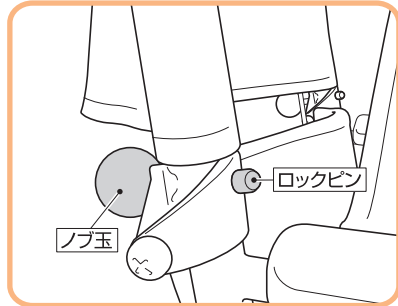
① グリップを持ち、矢印方向に、持ち上げる。



② バックサポートを両側起こす。



ロックピンが出ていることを確認する。



警告

●バックサポート折りたたみのロックピンが、「カチッ」と音がして、完全に出ているのを確認してください。(転倒の原因となります。)

していただく

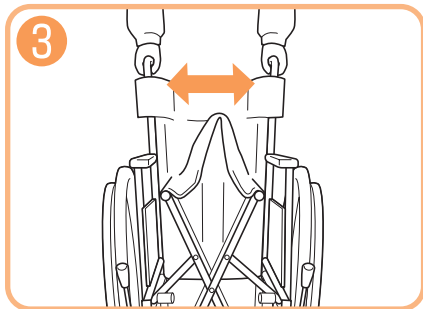


注意

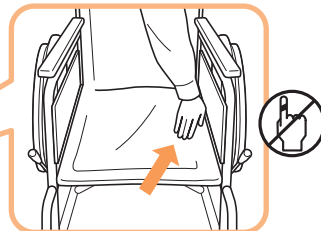
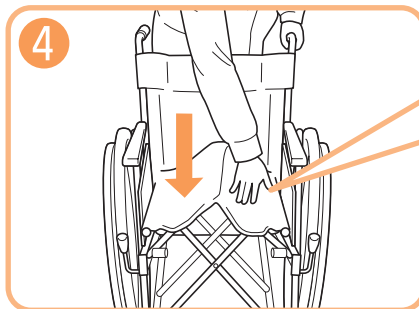
●バックサポートに重いものを引っ掛けないでください。
(車いすが不安定になり、転倒事故の原因となります。)

してはいけない

③ 車いすの後方に立ち、左右のグリップを持って両側に広げます。



④ 片側のグリップを手で持ち、シートを手で下に押し下げると、シートが広がります。



※手・指に注意



注意

●車いすを広げる時に、座パイプの横や下に、手や指を入れないでください。
(パイプに手や指を挟んでケガをします。)

してはいけない



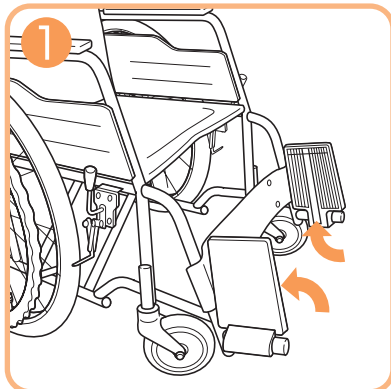
注意

●車いすを広げた時、座パイプが、受けに収まっているか、確認して座ってください。
(パイプが曲がったりして、転落事故及び故障の原因になります。)

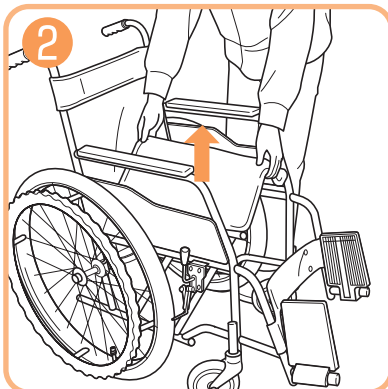
していただく

車いすの折りたたみ方

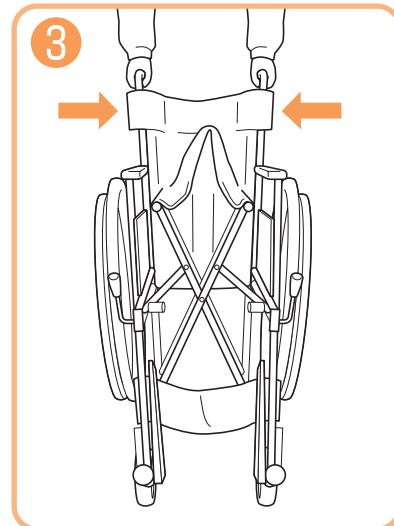
- ① フットサポートを矢印方向に回転させて上げる。



- ② シートの前方と後方の中央を同時に持ち上げる。

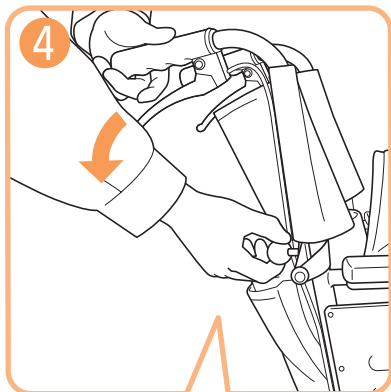


- ③ 左右のグリップを持ち内側にたたむ。

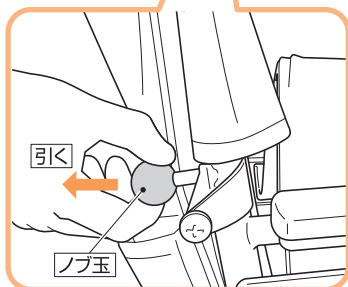
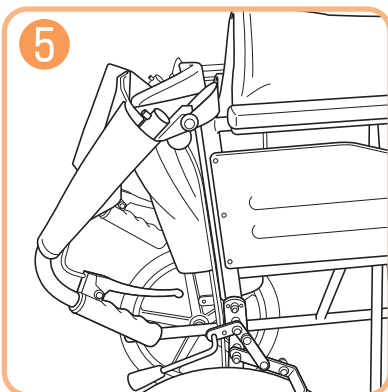


●バックサポートが折りたたみの場合は、次の手順を行うとさらに小さく折りたたむことができます。

- ④ グリップを片手で持ち、ノブ玉を後方に引きバックサポートを倒す。

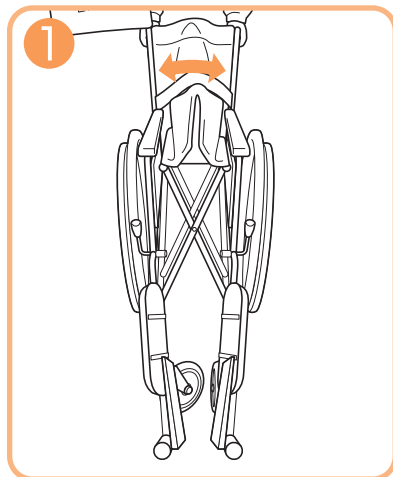


- ⑤ バックサポートを両側後方に倒す。

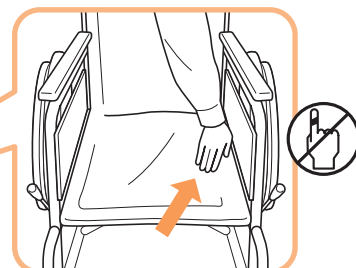
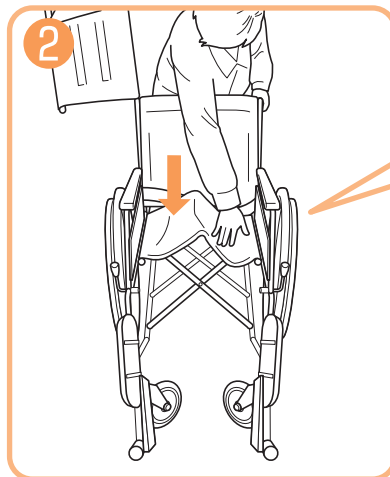


リクライニングタイプの拡げ方

① 車いすの後方に立ち、左右のグリップを持って両側に拡げる。

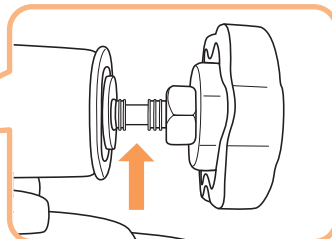
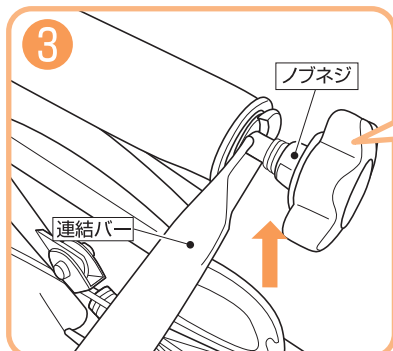


② 片側のグリップを手で持ちシートを手で下に押し下げるとシートが拡がります。



※手・指に注意

③ 連結バーをノブネジで固定する。



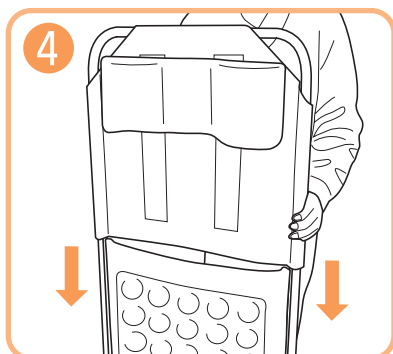
ノブネジの細い部分に連結バーをはめてから、ネジを締めてください。

⚠ 注意

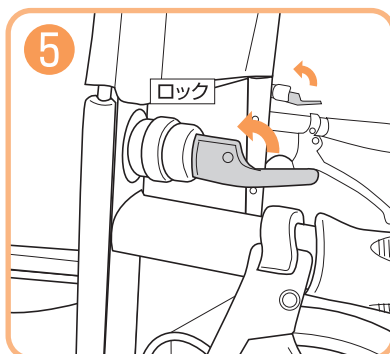
●リクライニングの連結バーのノブネジは、確実に固定してください。
(外れて、転倒、転落・事故原因となります。)

してはいけない

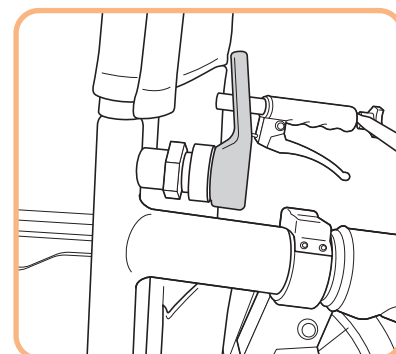
④ ヘッドサポートを取り付ける。



⑤ ロックレバーのロックを確認する。



(ロックした状態)



⚠ 注意

●ヘッドサポートのロックを確実にかけてください。
(外れて、転倒、転落・事故原因となります。)

していただく

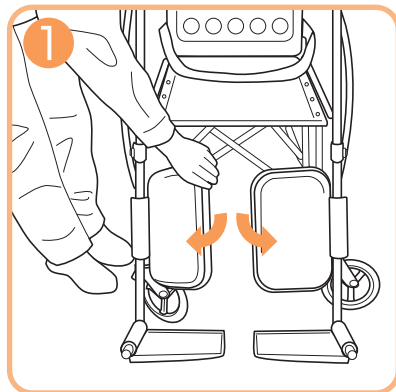
⚠ 注意

●必ずヘッドサポートを取り付けてご使用ください。
(パイプ差込口で手や頭にケガをする原因となります。又、フレーム強度が低下し、破損の原因となります。)

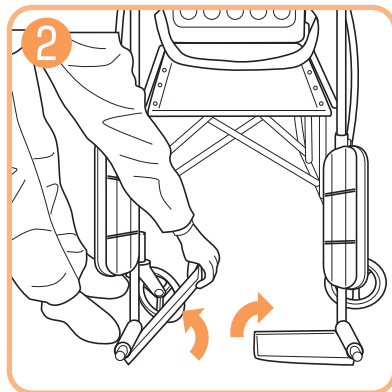
していただく

リクライニングタイプの折りたたみ方

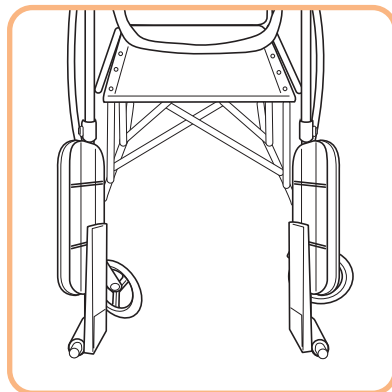
① ふくらはぎパットを跳ね上げます。



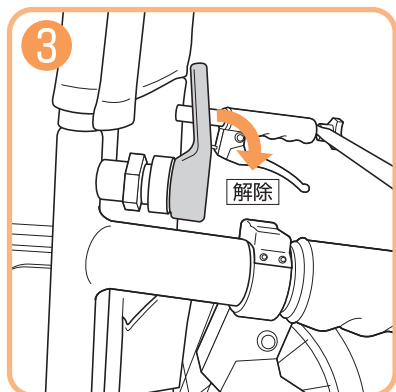
② フットサポートを跳ね上げます。



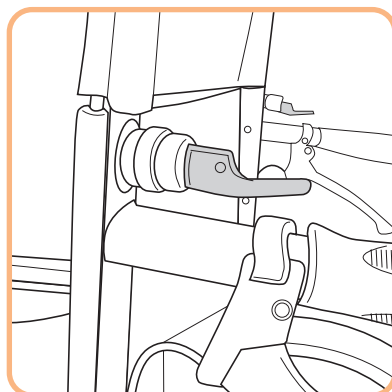
(跳ね上げた状態)



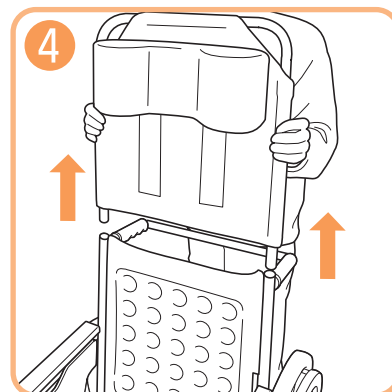
③ ロックレバーを倒す。(左右共)



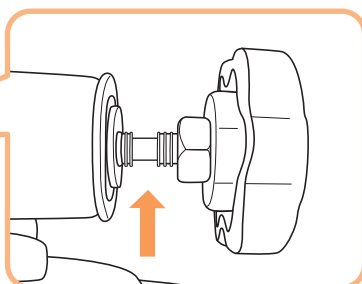
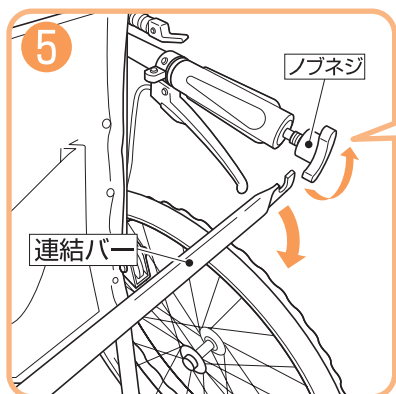
(解除した状態)



④ ヘッドサポートを外す。

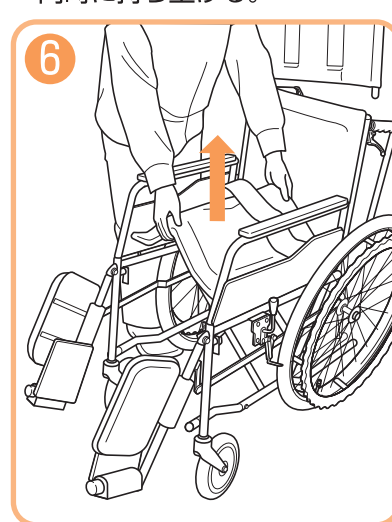


⑤ ノブネジを緩め、連結バーを外す。



ノブネジの細い部分に合わせて連結バーを外してください。

⑥ シートの前方と後方の中央を同時に持ち上げる。



⚠ 注意

●リクライニングの連結バーが車輪(スポーク)にあたらないようにしてください。

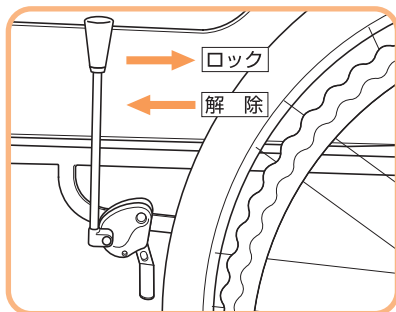
してはいけない

安全にお使いになるための使用方法

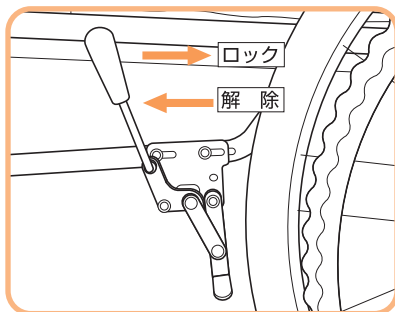
ブレーキの使用方法

- ブレーキレバーを後方に引くとロックします。
- ロックした方向と反対に引くと解除します。

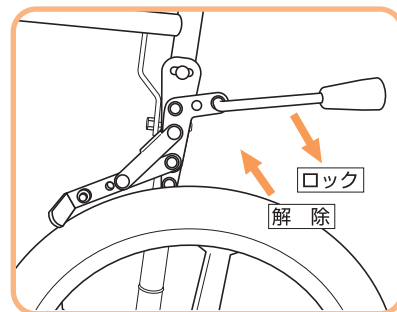
ミニタックル



鉄タックル(平型)



鉄タックル(介助型)



警告

- タイヤの空気圧が少ない状態で、使用しないでください。(P.26 ご使用の前に参照)
(ブレーキのロックが出来なくなり、車いすが動いたりして、事故の原因となります。)

してはいけない



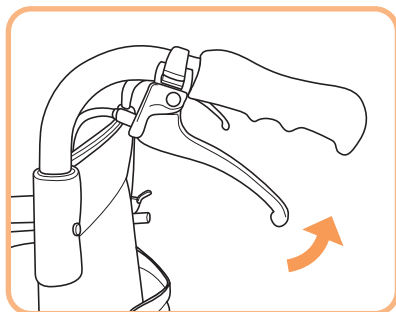
警告

- 車いすに乗る・降りる前や、ベッドへの移乗時には、必ずブレーキをロックしてください。
(車いすが動き、転倒事故の原因となります。)

していただく

キャリパーブレーキ

- レバーを握るとブレーキがかかります。
- レバーを離すと解除します。

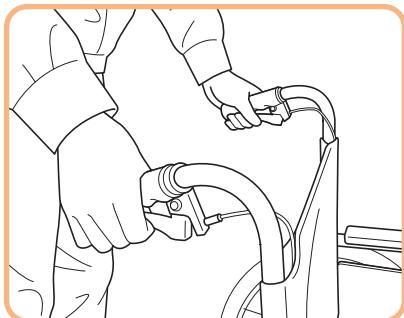


注意

- 急ブレーキをかけないでください。
(車いすに乗っている方が前方へ転倒する恐れがあります。)

してはいけない

介助者の方が走行中や下り坂での速度減速及び停止に、ご使用ください。



注意

- 介助者の方は、キャリパーレバーを、両側同時にかけてください。
(バランスを崩し、転倒事故の原因となります。)

していただく

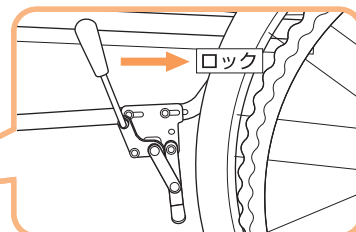
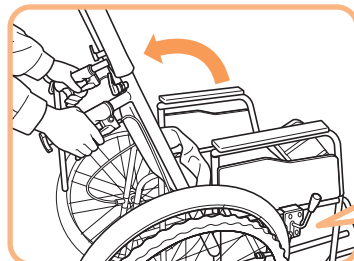
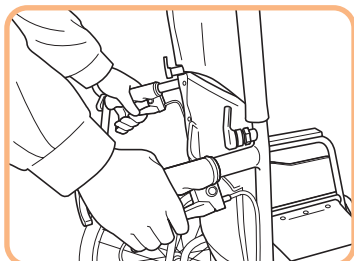
バックサポートのリクライニング方法

●バックサポートの角度を調整することにより、身体状態に応じて合わせることができます。

レバーを両側握る。

背もたれ角度を調整し、位置が決ったら、レバーを離す。

【注意】
操作はブレーキをロックして行ってください。



⚠ 警告

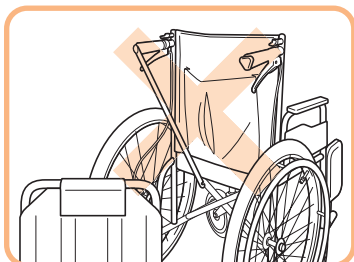
●リクライニングの角度調整をする時は、ブレーキをロックしてください。
(車いすが動いたりして、転倒事故の原因となります。)

していただく

⚠ 警告

●リクライニングレバーを左右同時に握りながら角度調整してください。
(転倒・転落事故の原因となります。)

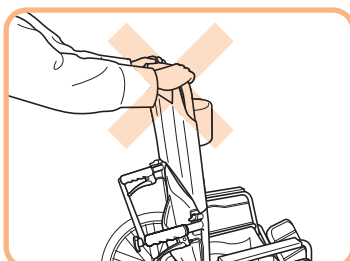
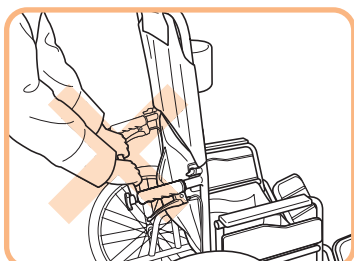
していただく



⚠ 注意

●リクライニングの連結バーを外したまま、使用しないでください。
●リクライニングのヘッドサポートを外したまま、使用しないでください。
(転倒・転落事故の原因となり大変危険です。)

してはいけない



⚠ 注意

●リクライニング車いすの連結バー・ヘッドサポート部を持って、走行しないでください。
(外れたりして、転倒事故の原因となります。)

してはいけない

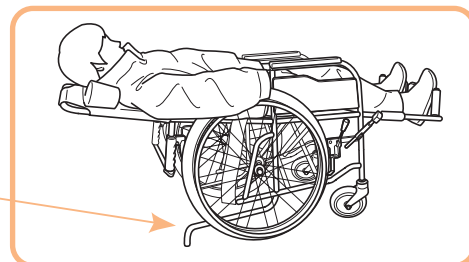
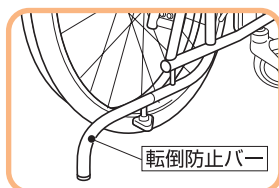


⚠ 注意

●車いすに使用者が乗っている状態で、リクライニング操作する時は、使用者の体重がバックサポートにかかっていますので、介助者はしっかり支えて行ってください。
(操作したときに、急にバックサポートが倒れパイプで顔などを打ってケガをする恐れがあります。)

していただく

●フラット状態で使用する場合は、バランスを崩し後方に転倒する恐れがあります。
危険防止のために、転倒防止バー(オプション)をご使用ください。



⚠ 注意

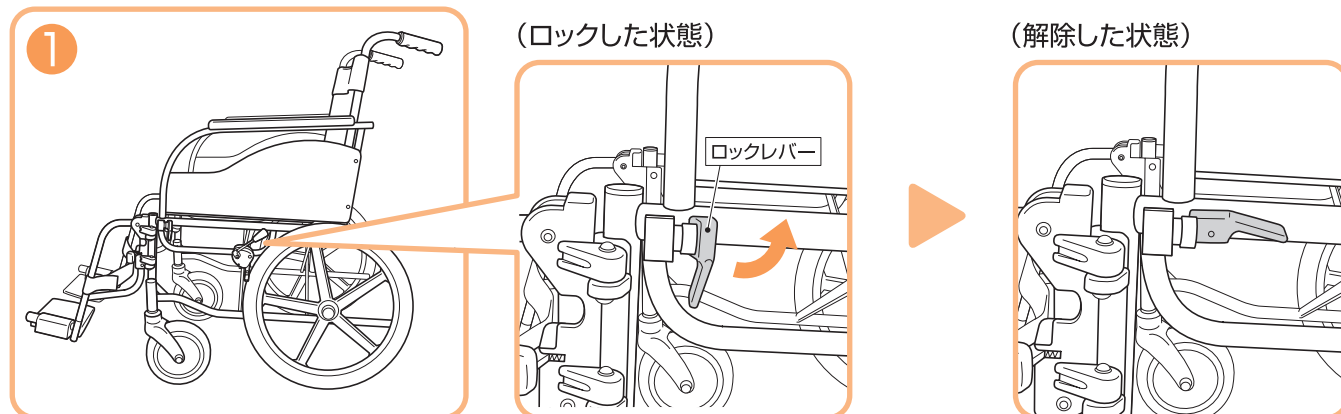
●介助者の方は、人が乗った状態でリクライニングしたまま、放置しないでください。
(バランスを崩し、転倒事故の原因となります。)

してはいけない

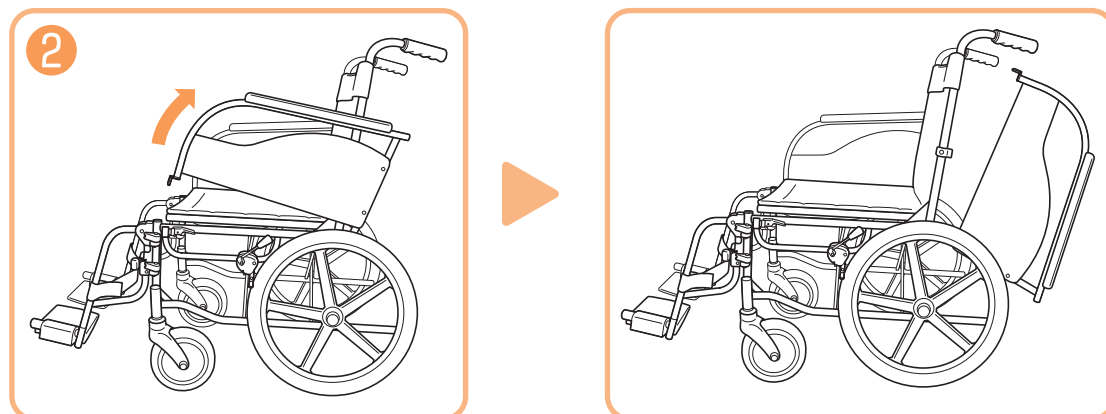
アームサポート(新タイプ)跳ね上げタイプ

●両側のアームサポートが後方に跳ね上がりますので、横からの乗り移りがしやすくなります。

① ロックレバーを矢印方向に起こす。



② アームサポートを後方に上げる。



⚠ 注意

- アームサポート跳ね上げをもどしたときは、ロックレバーのピンが完全にロックされていることを確認してください。
(転落事故の原因となります。)

していただく

⚠ 注意

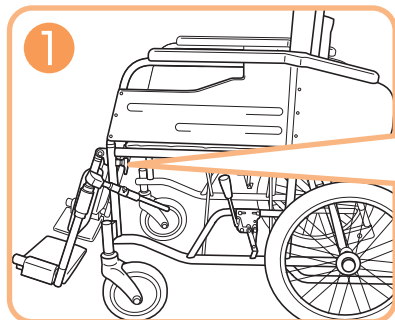
- アームサポートを持って、車いすを持ち上げないでください。
(ケガ、転倒、転落等の事故原因となります。)

してはいけない

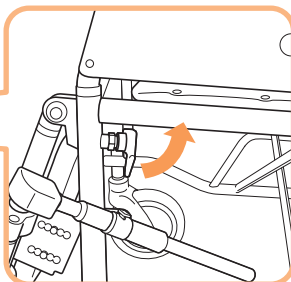
アームサポート着脱

●両側のアームサポートが取り外しできるので、横からの乗り移りがしやすくなります。

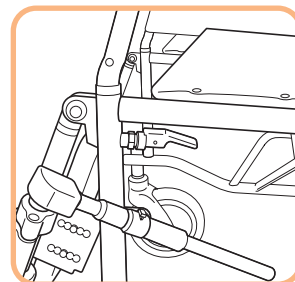
① ロックレバーを矢印方向に起こす。



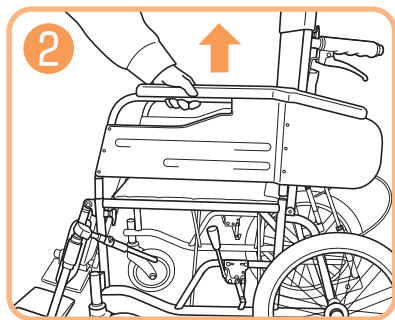
(ロックした状態)



(解除した状態)



② 肘掛けの中央部分を真上に持ち上げて外します。



●取り付けは、取り外しと逆手順で行ってください。 ※前側のパイプから入ると、取り付けが簡単です。

! 注意

していただく

●アームサポートを取り付けたときは、ロックが確実にされていることを確認してください。
(転落事故の原因となります。)

! 注意

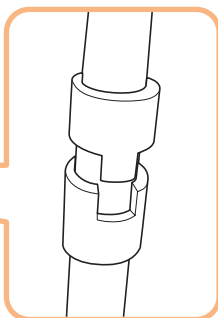
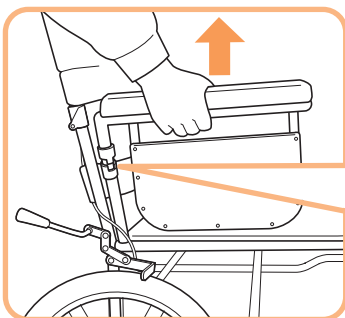
してはいけない

●アームサポートを持って、車いすを持ち上げないでください。
(ケガ、転倒・転落等の事故原因となります。)

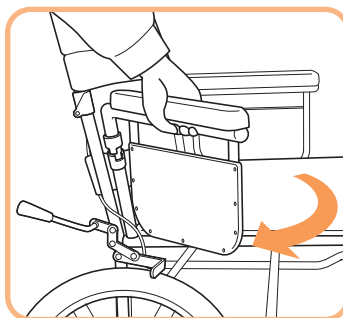
アームサポート横開き & 着脱

●両側のアームサポートが外側に開くため、乗り移りがしやすくなります。
また、着脱することもできます。

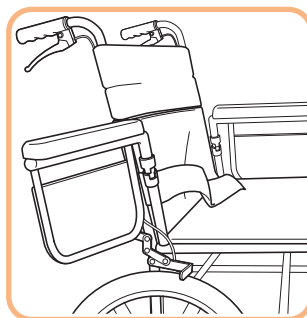
アームサポート中央を持ち水平に上げ、
かみ合わせのロックを解除します。



そのまま外側に回転して
ください。



(開いた状態)



! 注意

してはいけない

●アームサポートを持って、車いすを持ち上げないでください。
(ケガ、転倒・転落等の事故原因となります。)

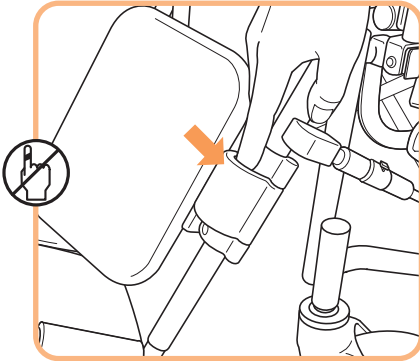
! 注意

していただく

●かみ合わせのロック部分で体や衣服などはさまないように確認しながら操作してください。

フット・レッグサポート(新タイプ)エレベータィング

- 使用者の身体状態に応じて、角度を調整することができます。
また、ふくらはぎパットの位置(角度)を変更することができます。



※指に注意

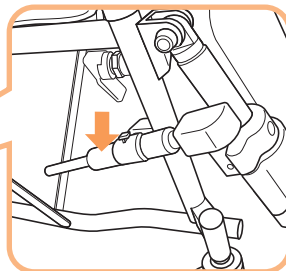
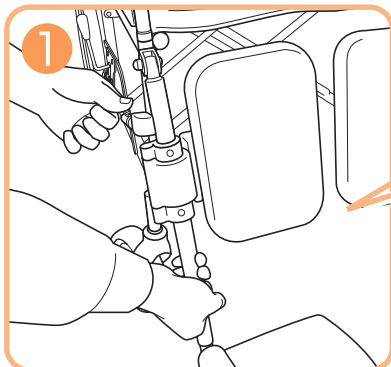
⚠ 注意

していただく

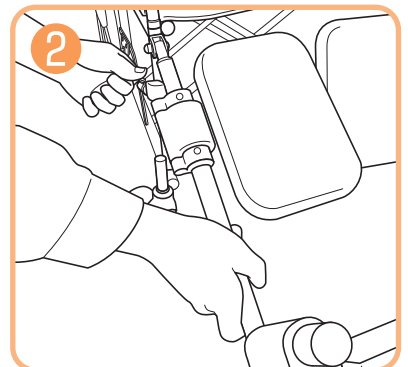
- ふくらはぎパットを回転させたときに、手・指をはさまないように注意してください。

足角度調整

- ① 操作する側のフットパイプを持ちながら、ロックレバーを押して下さい。



- ② ロックレバーは押したまま、フットパイプを上げ(下げ)適当な位置でロックレバーを離すと固定されます。



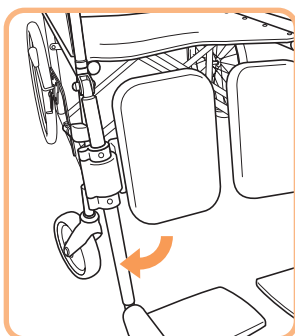
⚠ 注意

- エレベータィングのフットサポートに足が乗ったままの状態では操作する場合は、フット・レッグサポートパイプをしっかり支えて行ってください。
(ロックを解除した時に、手をパイプに挟んでケガをする原因となります。)

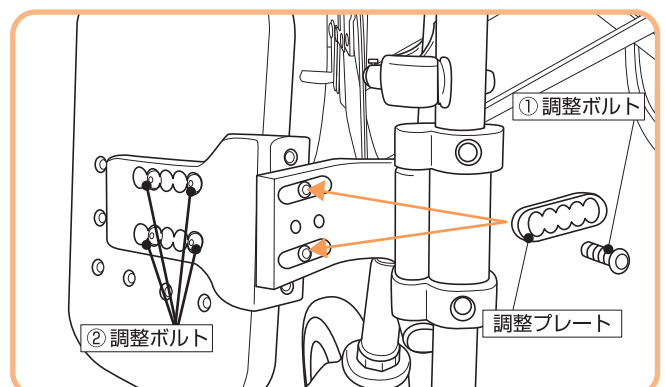
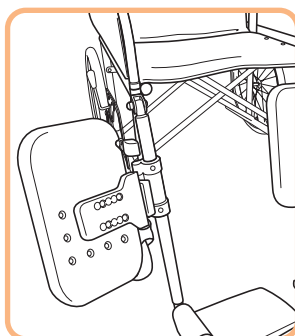
していただく

ふくらはぎパットの調整

- ふくらはぎパットを上下3段階、左右2段階、前後7段階に調整することができます。
また、角度も-10, 0, +10度で変更できます。



ふくらはぎパットを回転させてください。

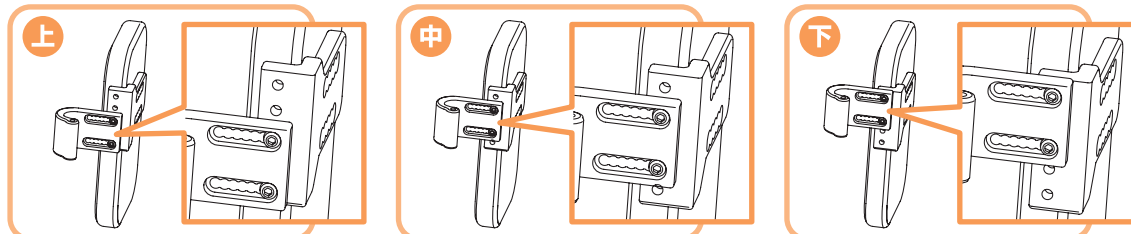


※適正トルク6Nm

●下記のそれぞれの調整を組み合わせ、最適な位置に設定してください。

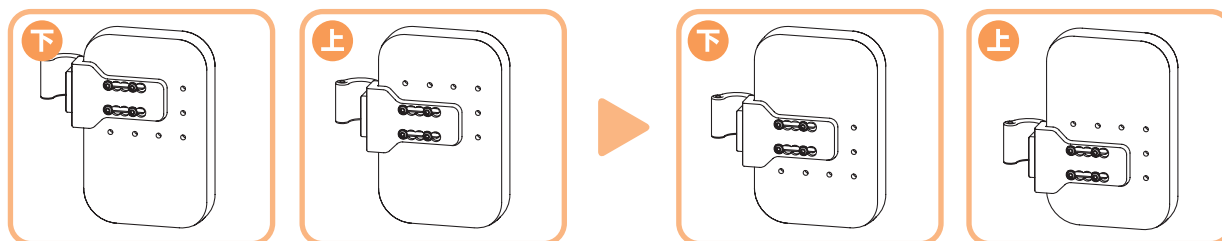
基本的な上下調整

①の調整ボルトを取り外します。このとき調整プレートをなくさないようにしてください。下図のように3段階に調整ができます。



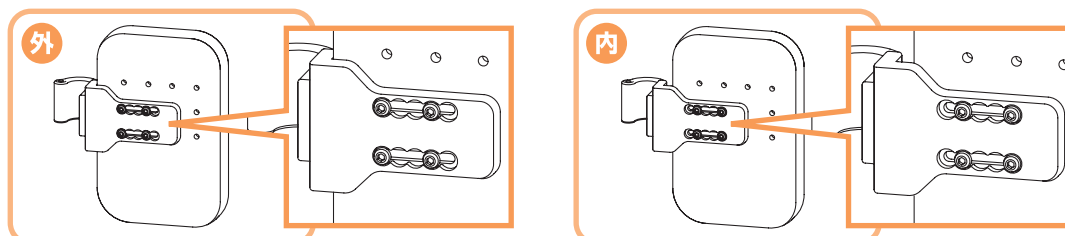
さらに上下調整する方法

②の調整ボルトを取り外します。下図のように2段階に調整ができます。さらにパットを上下入れかえると、調整範囲が広がります。



左右調整

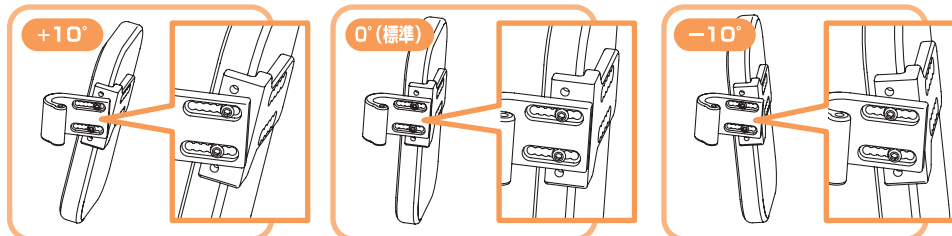
②の調整ボルトを取り外します。下図のように2段階に調整ができます。



※適正トルク
6Nm

角度調整

①の調整ボルトを取り外します。このとき調整プレートをなくさないようにしてください。下図のようにボルトの取り付け位置を上下1つずらすと角度がつけられます。



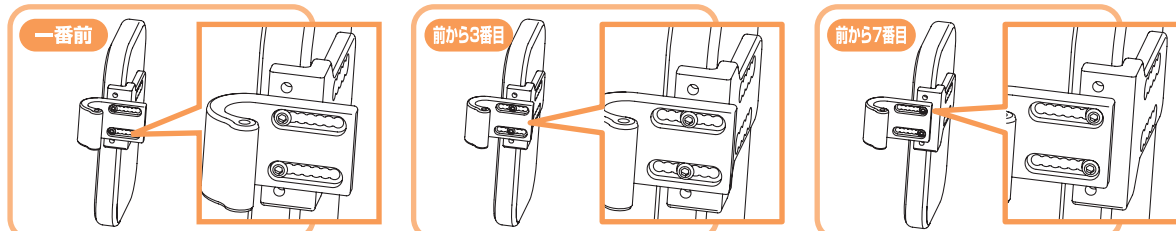
⚠ 注意

●①②のボルトは必ず
しっかりと締めてください。
(ふくらはぎパットが外れ、
ケガをする恐れがあります。)

していただく

前後調整

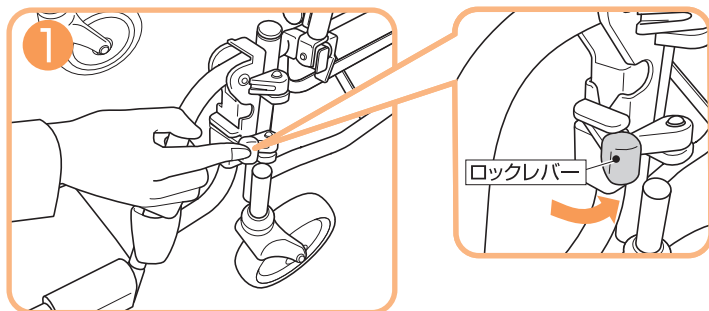
①の調整ボルトを取り外します。このとき調整プレートをなくさないようにしてください。7段階に調整ができます。



フット・レッグサポート(新タイプ) スイングアウト

- フット・レッグサポートをスイングアウト(外開き)したり、取り外すことによりトイレ・ベッド等への乗り移りがしやすくなります。介助の場合には、足元が広くなり、移乗動作が楽に行えます。また片足こぎ操作する時には、取り外すことにより足元が広がります。

① ロックレバーを押し、ロックを解除します。

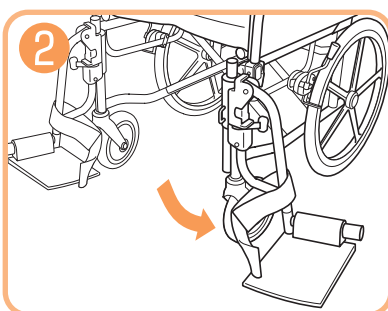


⚠ 注意

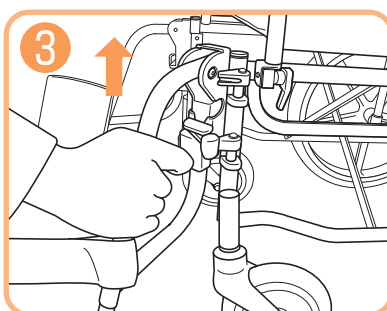
- スイングアウトをもどしたときは、ロックが確実にされているか確認してください。
(足を乗せたとき、外れて足をケガする原因となります。)

していただく

② フット・レッグサポートを開くように外側に回転させます。



③ フット・レッグサポートを取り外すときは、外側に回転した状態から上に持ち上げてください。



⚠ 注意

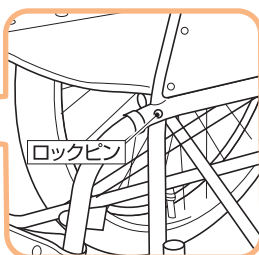
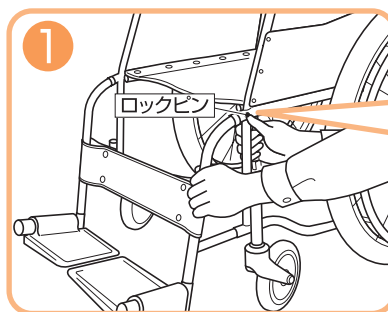
- スイングアウトや取り外し・取り付け操作時に、手をはさまないように注意してください。

していただく

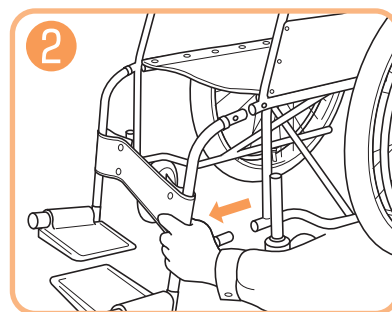
フット・レッグサポート着脱

- フット・レッグサポートを取り外すことができます。

① フット・レッグサポートを持ち、ロックピンを指で押さえます。



② ピンを押さえたまま、フット・レッグサポートパイプを前方へ引き取り外します。



- 取り付けは、上下のパイプを水平に入れ、ロックピンを指で押さえながら奥まで入れてください。

⚠ 注意

- 足をフットサポートに乗せた状態で取り外さないでください。

してはいけない

⚠ 注意

- 取り付けたときは、ロックが確実にされているか確認してください。

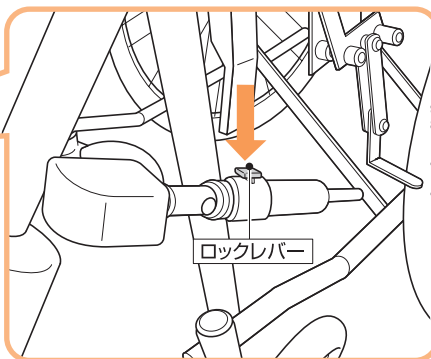
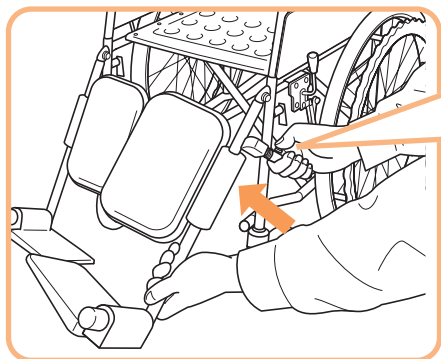
していただく

フット・レッグサポートエレベーティング

●使用者の身体状態に応じて、角度を調整することができます。

ロックレバーを押した状態で、フットパイプを上げ角度を調整してください。

ロックレバーを離すと固定されます。



⚠ 注意

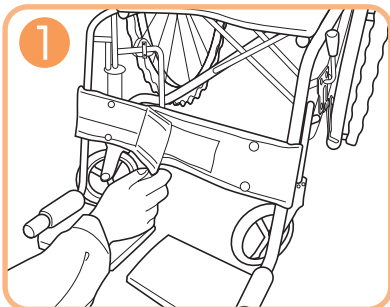
- フットサポートに足が乗った状態で操作する場合は、フット・レッグサポートパイプをしっかり支えて行ってください。
(ロック解除時に、手をパイプに挟んでケガをする原因となります。)

していただく

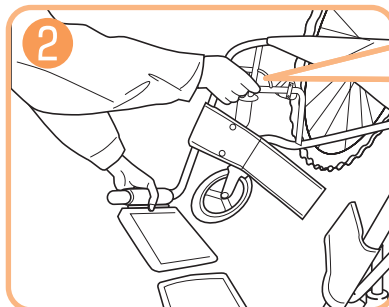
フット・レッグサポートスイングアウト

●スイングアウトしたり、取り外すことにより、トイレ・ベッドへの乗り移りがしやすくなります。又、片足こぎ操作されたりする時は、取り外すことにより、足元が広くなります。

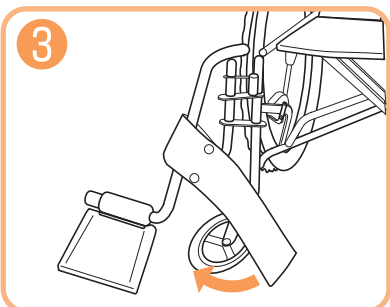
① マジックを外す。



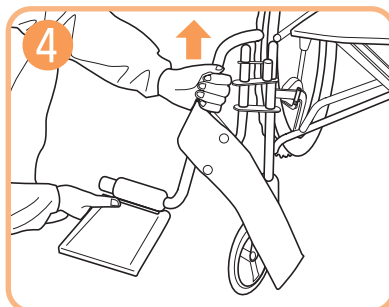
② ロックレバーを引き上げる。



③ フット・レッグサポートを開くように外側に回転する。



④ フット・レッグサポートを上を持ち上げ外す。



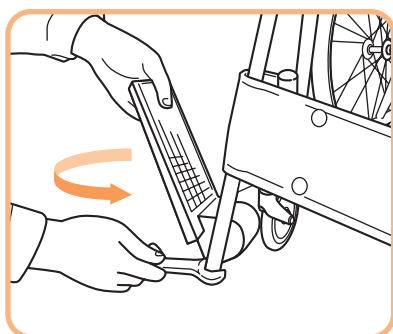
●取り付けは、取り外しと逆手順にて行ってください。

⚠ 注意

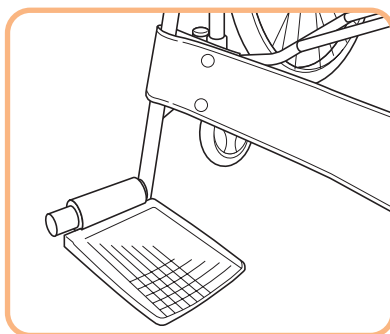
- スイングアウトをもどしたときは、ロックが確実にされているか確認してください。
(足を乗せたとき、外れて足をケガする原因となります。)

していただく

- お買い上げ時(梱包時)にはフットサポートが収納されていますので、使用する前に、前方に出してください。



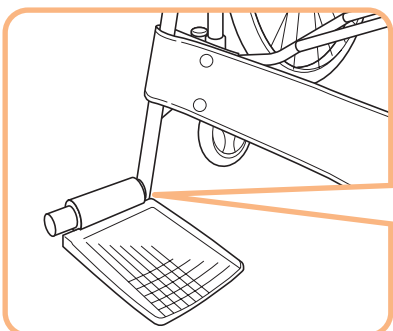
フットサポートを付属品のスパナにて、先端ボルトを少し動くところまで緩める。



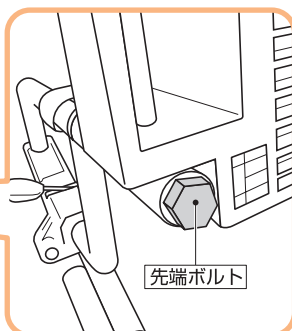
フットサポートを回転し、高さ調整を行い先端ボルトを完全に締める。

※適正トルク
20Nm

フットサポートの高さ(長さ)調整

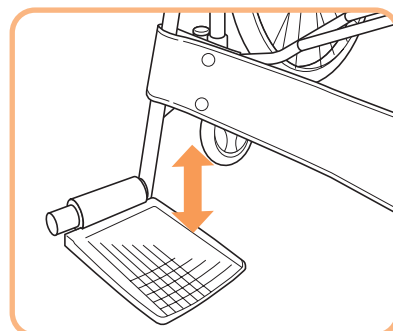


フットサポートを少し上げ、付属品のスパナで先端ボルトを少し動くところまで緩める。



〈フットサポート裏側から見た図〉

先端ボルト

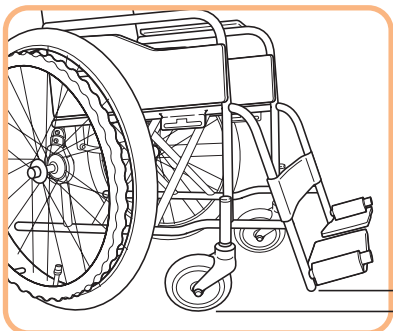


高さを調整し、先端ボルトを完全に締める。

⚠ 注意

- フットサポートが固定されているか、確認してから使用してください。
(フットサポートが脱落し事故の原因になります。)

していただく



⚠ 注意

- フットサポートの高さは地面より5cm以上で
ご使用ください。
(路面の凹凸や障害物にフットサポートが引っかかり
急に車いすが止まり、転倒の事故の原因になります。)

していただく

↑ 5cm以上

使用方法

乗り方・降り方

警告

- 車いすに乗る・降りる前や、ベッドへの移乗時には、必ずブレーキをロックしてください。
(車いすが動き、転倒事故の原因となります。)

していただく

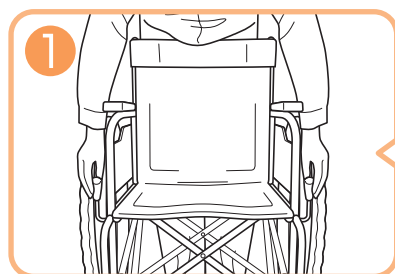
注意

- 車いすの、乗り降りときは、路面の平坦な場所で行ってください。
(車いすが動き、バランスを崩し、転倒・転落事故の原因となります。)

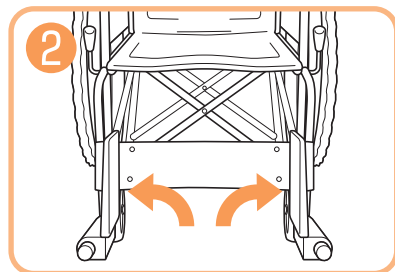
していただく

乗る時

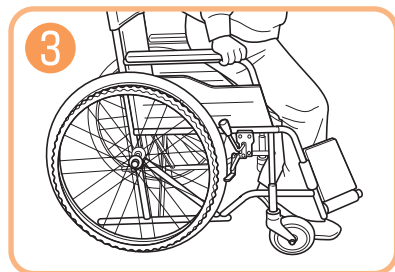
- ①ブレーキを両側ロックする。



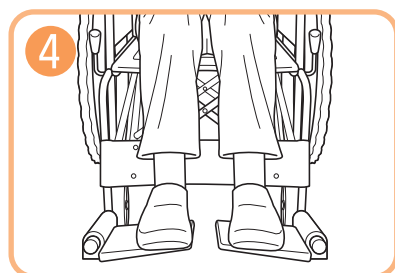
- ②フットサポートを両側上げる。



- ③両手で、アームサポートを持ちゆっくり座り込む。

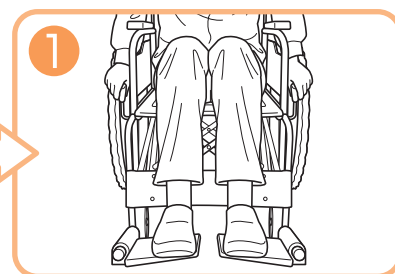


- ④フットサポートに足を乗せる。

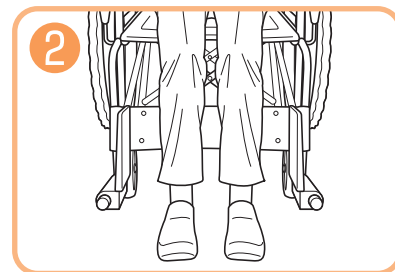


降りる時

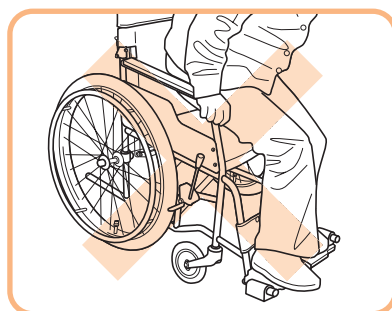
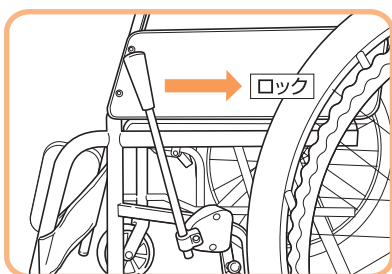
- ①ブレーキを両側ロックする。



- ②フットサポートを上げ、足を下ろす。



- ③両手で、アームサポートを持ちゆっくり立ち上がる。



警告

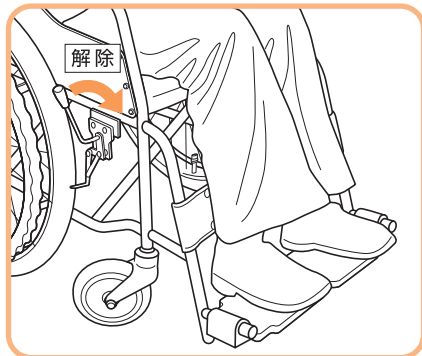
- フットサポートの上に乗って、乗り込んだり、降りるとき上に立ち上がらないでください。
(車いすが、バランスを崩し、転倒事故の原因となります。)

してはいけない

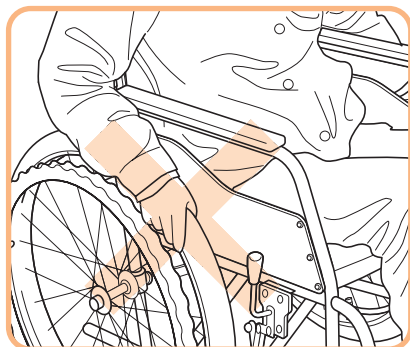
動かし方

(自走用車いすの場合)

ブレーキロックを解除する。



ハンドリムを握り車輪を
回転させ移動させる。



注意

- タイヤを持って車いすを操作しないでください。
(ブレーキに手があたり、ケガをする原因となります。)

してはいけない



注意

- スピードが出ている状態で、素手でハンドリムを持って減速しないでください。
(摩擦で、手にケガをする恐れがあります。
そのようなご使用をされる場合は、車いす用手袋
〈オプション仕様〉をご使用ください。)

してはいけない



注意

- 走行中、身体を乗り出さないでください。
(バランスが不安定になり、転倒、転落事故の
原因となります。)

してはいけない

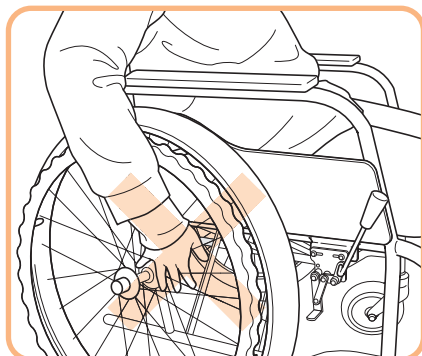


注意

- 車輪が回転しているときは、スポークに手や指を差し込まないでください。
(手や指をはさんで、ケガをする原因となります。)

してはいけない

※このような場合にはオプションのスポークカバーの
使用をおすすめします。



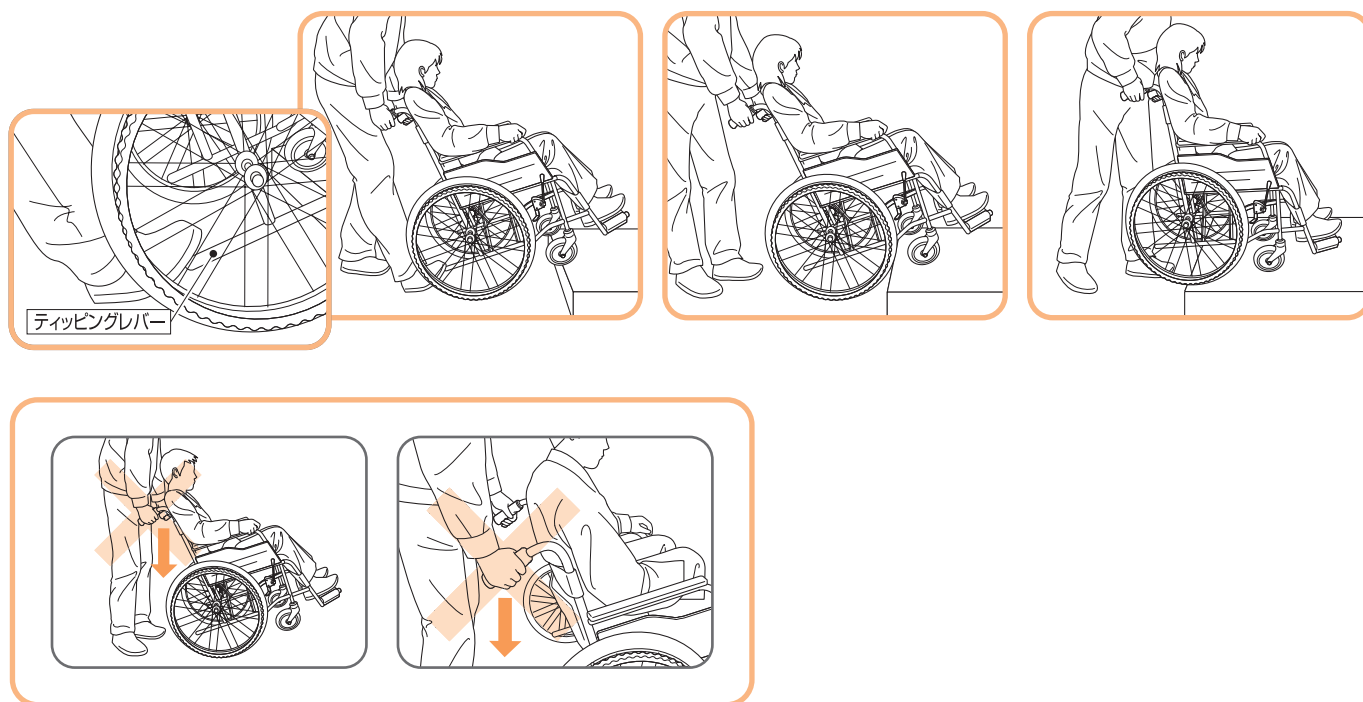
次のような使用場所や環境では、危険が伴う場合がありますので、必ず介助者の方が付き添ってください。

- ・坂道の登り下り
- ・踏切の横断
- ・側溝の格子蓋の横断
- ・悪路
- ・電車への乗車、下車
- ・段差乗り越え
- ・路面が片側に傾斜しているところの走行

介助の仕方

介助者援助をお願いしてください。

介助者のかたは、段差を乗り越える場合は、ティップングレバーを踏んでキャスト（前輪）を上げ、段差に乗せてから、後輪を浮かし乗り越えてください。



⚠ 注意

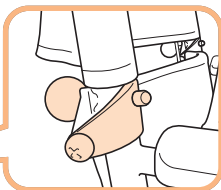
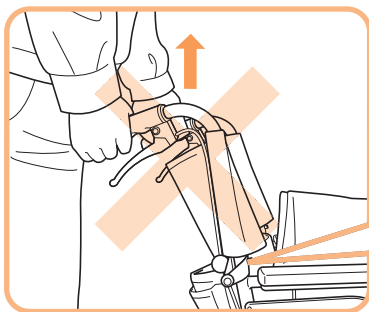
- バックサポートパイプのみで、キャスト（前輪）を上げないでください。
（バックサポートパイプが曲がったり、折れたりして、転倒して事故の原因となります。）

してはいけない

⚠ 注意

- スピードをつけて、段差を乗り越えようとししないでください。
（使用者が車いすから、転落して事故の原因となります。）

してはいけない



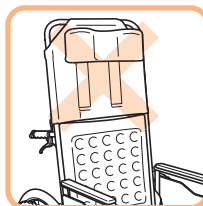
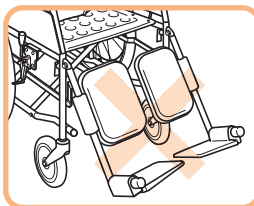
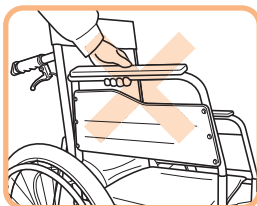
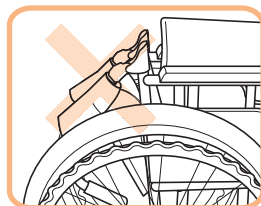
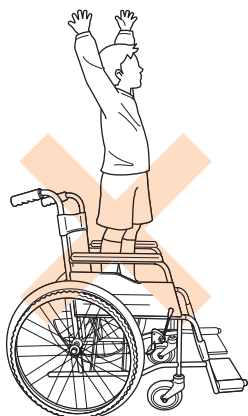
注意

●バックサポートが折りたたみ式の場合は、使用者が車いすに乗っている状態でグリップを持って吊り上げないでください。
(パイプが、外れたりして、転倒・転落事故の原因となります。)

してはいけない

車いすを持ち上げようとして次のような箇所は、持たないでください。

- ・バックサポートが折りたたみ式のバックサポートパイプ部
- ・アームサポートが、跳ね上げ式・着脱式・着脱&横開き式のアームサポート部
- ・フット・レッグサポートが、(新タイプ) エレベーター式・(新タイプ) スイングアウト式、エレベーター式、スイングアウト式・着脱式のフット・レッグサポート部
- ・バックサポートがリクライニング式のバックサポートパイプ部



警告

●車いすのシートの上で立ち上がらないでください。
(転倒事故の原因となります。)

してはいけない

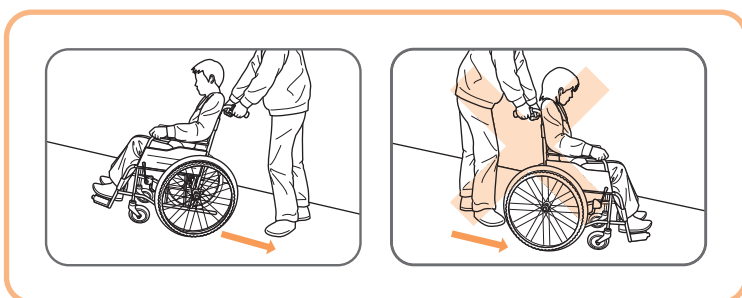
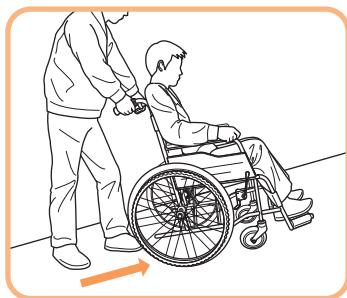
外出時の注意

介助者援助をお願いしてください。

坂道の登り下りでご使用される場合は、必ず介助者の方に支えていただいて行ってください。

登り坂

下り坂

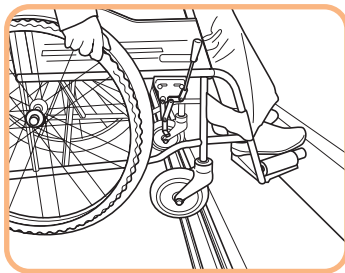
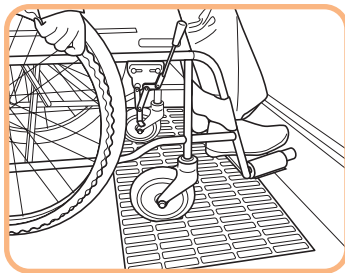


注意

●坂道を下るとき介助者の方は、車いすを後ろ向きでゆっくり確認しながら走行してください。
(前向きで下ると、乗っている人がすり落ちたり、前のめりとなり、転倒事故の原因となります。)

していただく

介助者援助をお願いしてください。



警告

●側溝の格子蓋や踏み切りなどでご使用される場合は、必ず介助者の方に支えていただいて行ってください。
(車輪が溝にはまって転倒事故の原因となります。)

していただく



注意

●側溝の格子蓋、踏み切りのレール溝にキャストが落ち込まないように注意してください。
(車いすが急に止まり使用者の体が前方に傾き、転落転倒事故の原因となります。このような、環境条件でご使用される場合は、ワイドキャスト(オプション仕様)をご使用ください。)

していただく

【介助者の方へ】



注意

●移動中、つま先が障害物に当たらないように、確認して走行してください。

していただく



注意

●フットサポートに、足が乗っているか確認して走行してください。

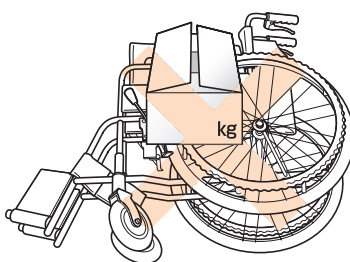
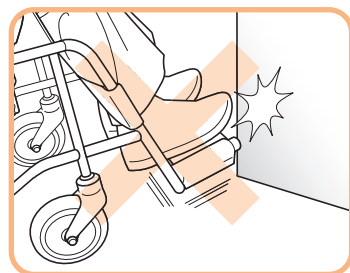
していただく



注意

●車いすを、横向きに倒して上に物を置かないでください。
(重みで車輪フレームが、曲がったりして故障の原因になります。)

してはいけない



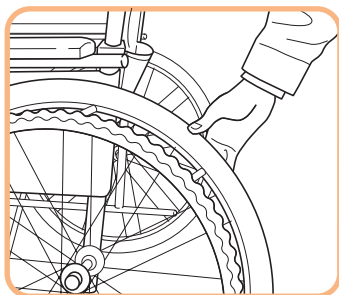
■階段などで、使用者が乗ったままの状態、介助者に吊り上げてもらう場合

ベースパイプ・バックサポートの固定されている箇所を持って、4~5人で支えてもらってください。

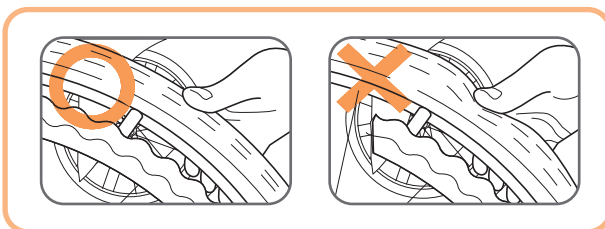
ご使用の前に

■ご使用前に、安全にご使用していただく為、次の確認をお願いします。

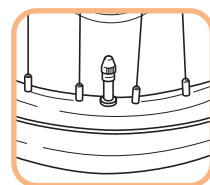
- ・タイヤの磨耗・亀裂はないか。
- ・タイヤの空気圧は、適正か。
- ・ブレーキに異常はないか。
- ・ブレーキをロックした時、駆動輪・主輪が回転しないか。



タイヤを親指で押し、容易にへこむ場合は、エアーを
自転車用空気入れで補充してください。
(最適空気圧:250~300kPa)



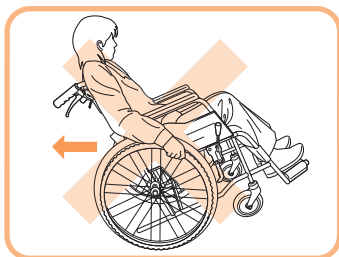
タイヤの空気バルブの
ネジが緩んでいないか
確認してください。



⚠ 警告

- タイヤの空気圧が少ない状態で、使用しないでください。
(ブレーキのロックが出来なくなり、車いすが動いたりして、事故の原因となります。
また、タイヤのパンクの原因となります。)

してはいけない



⚠ 注意

- バックしながら急停車しないでください。
(転倒事故の原因となります。)

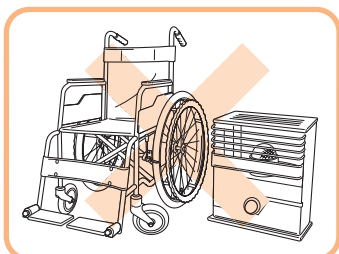
してはいけない



⚠ 注意

- 凹凸のある路面では、前かがみ姿勢で使用しないでください。
(バランスを崩し、前に転倒して事故の原因となります。)

してはいけない



⚠ 注意

- 火気の近くに置かないでください。
(タイヤがパンクしたり、シートが燃え火災の原因となります。)

してはいけない

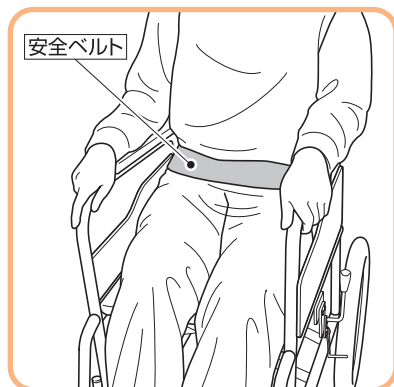
車いすのオプション

車いすをより使いやすくするために、いろいろなオプションが用意してあります。
(車いすにより取り付けできない場合がございます。販売店、または松永製作所までご相談ください。)

安全ベルト

CM-501,52,541,56は標準装備です。

●使用者が、車いすから転落したり、ずり落ちるのを保護します。



⚠ 注意

していただく

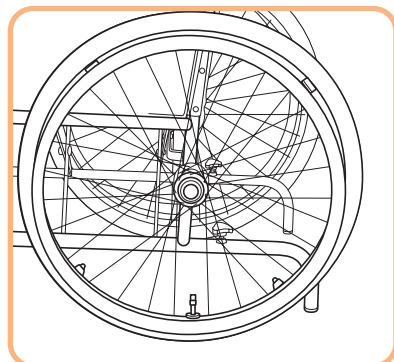
●安全ベルト装着機種は、必ずシートベルトを締めてください。
(衝撃などで転落し事故の原因となります。)

⚠ 注意

していただく

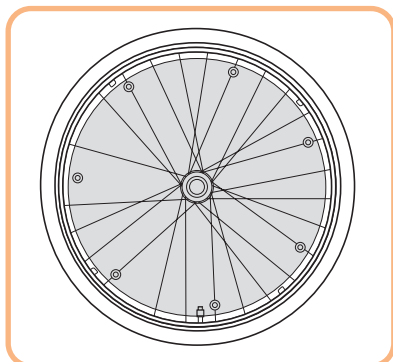
●安全ベルトのマジック式は、糸くずや汚れを取り除いてください。
(粘着力が弱くなり、衝撃を受けた時外れ転落事故原因となります。)

転倒防止



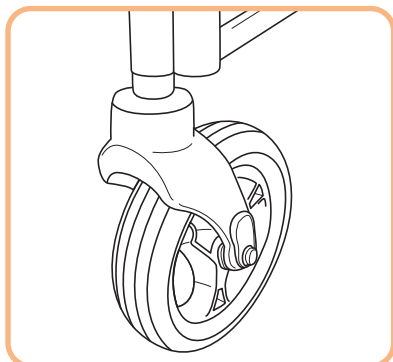
車いすが後方へ倒れるのを防止します。

スポークカバー



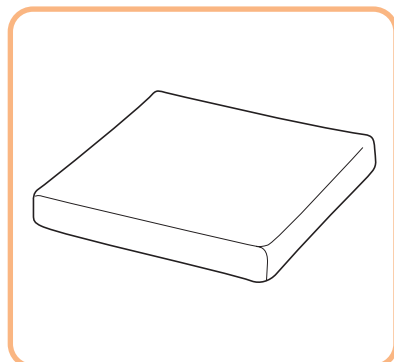
車輪(スポーク)に手を入れケガをする事を防止します。

ワイドキャスター



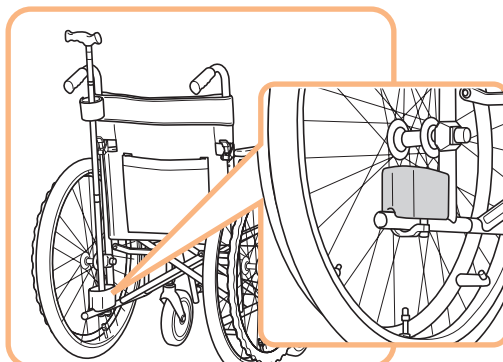
タイヤ幅を広くし、溝などへ落ちにくくします。

クッション



体重の圧力を分散し、快適に座ることができます。
(いろいろな種類があります。)

杖入れ



車いす後方に、杖を収納することができます。

その他にも

- テーブル
 - ガードル架
 - ボンベ架
 - 泥よけ
- などで用意しております。

詳しくは、カタログをご覧ください。

もしこんなトラブルが発生したときは

車いすをご使用されていて故障かなと、思うトラブルが発生したら、修理を依頼するまえに下記項目を確認してください。

ト ラ ブ ル	確 認 点	対 処
タイヤの空気が少ない	・タイヤの空気圧は適正ですか	空気入れてください
空気を入れてもすぐに抜ける	・タイヤの空気入れ部のネジは、しっかり締まっていますか	しっかり締め直してください
	・ムシゴムが劣化していませんか	むしゴムを交換してください
走行操作が重い	・タイヤの空気圧は適正ですか	空気を入れてください
	・駆動輪・キャストに髪の毛、ビニールが巻きついていませんか	取り除いてください
真っ直ぐ走らない	・キャスト(前輪)が片べりしていませんか	取扱店にご連絡してください
バックサポート折りたたみのロックピンが入らない	・車いすを払って、バックサポートを折りたたみしていませんか	車いすを折りたたんで、行ってください
キャリパーブレーキが効かない	・ワイヤーが、ねじれていませんか	ワイヤーのねじれを調整してください
	・ワイヤーの遊びが多くありませんか	取扱店にご連絡してください
ブレーキが効かない	・タイヤの空気圧は適正ですか	空気を入れてください
	・タイヤは、磨耗していませんか	取扱店にご連絡してください

車いすのお手入れの方法

■清掃は、水につけたタオルを強くしぼり、泥やホコリを拭き取った後に乾いた布で仕上げ拭きをしてください。

揮発性剤（シンナー・ベンジン・アルコール類）では、清掃しないでください。

変色したり、劣化の原因となります。

ホースなどで、直接水をかけないでください。車輪及びフレーム内部・ブレーキ部に水滴が残り、錆の原因となります。

■タイヤの空気圧、最適空気圧：250～300kPaを適正に保ってください。

空気圧が少ないときは、補充してください。

■タイヤには、ひび割れを防ぐ為に老化防止剤が配合されていますので、次のような環境及び薬剤はさけてください。タイヤの劣化を促進させ、ひび割れの発生原因となります。

- オゾン（O₃）
- 光線(日光)、熱・伸張等の機械的作用。
- 銅・マンガンのような金属の塩、石鹼などの容易に酸化される物質。
- シリコン系ワックス（自動車タイヤ用ツヤ出し剤、潤滑剤（錆落とし含む））。

■車いすに異常がある場合は、取扱店で、点検・修理をおこなってください。

その状態で使用されますと、使用中に破損し、事故の原因となります。

- タイヤの劣化・ひび割れ・空気漏れ
- 各部固定部品の変形
- ボルト・ナット・ビスの緩み
- フレームのひび割れ・曲がり・ガタツキ
- 駆動輪・キャストの変形
- キャリパーブレーキ・ブレーキのきき具合

保管場所

次のようなところでは、保管しないでください。
故障の原因となります。

●雨に濡れるようなところ ●直射日光が当たるようなところ ●湿気の多いところ ●高温室になるところ ●炎天下なところ

保証

●保証期間は、お買上げ後1カ年です。(本体、付属品共)

ただし、次の場合は、保証期間中でも有償修理とさせていただきます。

1. 火災、天災による故障・損傷の場合
2. 取扱説明書に記載の使用方法、ご注意に反するお取扱いによって発生した故障の場合
3. 無断仕様変更及び、改造による故障の場合
4. タイヤの磨耗、パンク、シートのやぶれ、ブレーキ、リクライニング用ワイヤー、ブレーキゴム等の消耗品、及び各部の劣化による故障、損傷の場合
5. 修理に要した運賃等の諸経費
6. この保証書は日本国内のみ有効です。

アフターサービス

万一故障の場合は、お買上げいただきました販売店、または松永製作所へ保証書ご持参の上、修理をお申しつけください。



株式会社 松 永 製 作 所

〒503-1272 岐阜県養老郡養老町大場484

TEL0584-35-1180(代) FAX0584-35-1270

URL <http://www.matsunaga-w.co.jp>



古紙配合率100%の再生紙を使用しています。